

出来事ファイル (No.24-4)

5月の元町商店街イベント情報

ゴールデンウィークイベント2024

大人気の“フェイスペイント”や、元町商店街誕生150周年大パネルの前での“写真撮影会”、謎を解いて宝箱を開ける暗号を探す“謎解きゲーム”、“キッズコンサート”など、イベントが盛りだくさん!

こどもの日は、元町商店街で、遊びつくそう!

日時 2024年5月5日(日) 11:30~16:00

元町3丁目商店街、4丁目商店街、5丁目商店街 すべて参加無料(イベントによってSNSアカウントのフォローが必要な場合があります。)

- 3丁目.....フェイスペイント、150周年大パネル前での写真撮影
- 3-4丁目合同... 謎解きゲーム
- 4丁目.....子ども落語
- 5丁目.....キッズコンサート
- 全丁.....もとずきんちゃんパレード



元町の芸術家たち展(こうべまちづくり会館)

日時 5月16日(木)~21日(火)

イベントの詳細は、元町商店街ホームページで、その都度お知らせします。内容は、変更になる場合があります。

D51広場前イベント

日時 5月11日(土) もとまちハーバー懇談会

令和6年5月11日は、JR神戸駅から大阪駅までの関西鉄道が開通して150周年の記念日です。

この記念日に合わせて、神戸駅前にあるD51広場にて、イベントを実施します。D51広場前には車道がありますが、今後の駅前再整備計画の中で、一部を完全に歩道として整備する計画があるようです。

本イベントでは、再整備計画に向けた社会実験として、D51前の車道の一部歩行者専用空間として活用します。ぜひお越しください。(D51前広場)



■もとまちハーバークリーン作戦

3月6日(水)正午12時から、エスタシオン・デ・神戸・みなと元町タウン協議会事務局から9名(株)ベルコから4名が、ハーバーロード周辺・きらら広場のクリーン作戦を実施しました。

毎月、第1水曜日12時より、地域の企業様有志で実施しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。



エスタシオン・デ・神戸のみなさん・タウン協議会事務局 株式会社ベルコのみなさん

□読者プレゼント

観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

◎キース・ヘリング展 アートをストリートへ

会場:兵庫県立美術館ギャラリー棟3階ギャラリー 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 [HAT神戸内]

会期:2024年4月27日(土)~6月23日(日) 時間:午前10時~午後5時30分(入場は午後5時まで) 休館日:月曜日※祝日の場合は翌日 問合先: ハローダイヤル050-5541-8600 (午前9時00分~午後8時00分)



《無題》1983年 中村キース・ヘリング美術館蔵 Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation

◎徳川美術館展 尾張徳川家の至宝

会場:あべのハルカス美術館 会期:2024年4月27日(土)~6月23日(日)

※会期中、一部作品の展示替えがあります。 時間:火~金/10:00~20:00 月土日祝/10:00~18:00 (入館は各日閉館の30分前まで) 問合先:06-4399-9050 (あべのハルカス美術館)



国宝 初音時旅旅箱、江戸時代寛永16年(1639)徳川美術館蔵 ※展示期間:4/27~5/26

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は、3月8日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(石倉デザイン)石倉伸吾、(KKテクノ)松本美紀、(こうべまちづくり会館)木原正剛、(佐野運輸)入山隆寛、(神明倉庫(株))藤尾憲弘・大西登紀子、(トマト銀行)池田和広、(兵庫県信用組合)山之井純子・黒木省悟・皆川裕希、(広島銀行)橋田英憲、(三鈴マシナリー(株))稲岡千碩・井上友唯、(新光明飾(株))藤田直之・西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、17名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



みなと元町 TOWN NEWS

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:片山泰造 編集人:平松日出雄 電話・FAX:078-391-0831

D51 前を広場化へ。5月11日・12日社会実験開催決定!

合資会社ゼンクリエイト 根津 昌彦



JR神戸駅から元町商店街の道中にあるD51

D51前道路の歩行者専用道路化(広場化)するための取り組みが、着々と進んでいます。2024年5月11日は、JR神戸駅~大阪駅に鉄道が開業してからちょうど150周年の日。この日は、JR西日本が記念式典を含め、さまざまな催しを企画していますが、神戸市も現在取り組んでいるJR神戸駅前広場の再整備に向け、もとまちハーバー懇談会・ハーバーロードワーキングとともに社会実験企画を進めてきました。概要がまとまりましたので、本紙にて告知するとともに、多くの方々に社会実験企画への参加を呼びかけさせていただきます。

この社会実験の目的としては、「①D51広場の将来形状・活用の体験による将来イメージと気運の醸成」「②地域住民・地域企業・行政が連携して管理・活用を行っていくための実践的練習及び体系づくり」「③D51広場計画への反映を目指した地域からの意見・活用方法の収集」の3つを掲げています。

社会実験の実施概要は、右図に示した通りで、1日目【5月11日(土)午後~晩】は、D51前道路と隣接する高架下のD51-Parkを社会実験会場として、体験ブース・飲食テント・キッチンカー・パフォーマンス・ワークショップ、灯りの展示など様々なプログラムで楽しんでいただきます。2日目【5月12日

(日)午前~午後】は、にぎやかな演出は一切行わず、「芝生が敷かれた空間がD51前にあるだけで休日には人は集まってくるのか?」という問いに対して、その時その場所で一体どんな人が集まってどんな過ごし方をしているのかを市民の様子をモニタリングしようという実験です。

現在、全国各地で道路空間を人々が集い憩うにぎわい空間に変えていこうという取り組みが行われ、『道路=自動車空間』から『道路=人の集い場』という概念へとシフトチェンジしている最中と言えます。若者の車離れが叫ばれるようになった今日、歩いて暮らせる街や低炭素社会の実現など、各地でできる小さなことの1つが、こうした車のための道を人のために空間に変えていくことだと思います。

以前にも記したように、元町商店街の西南端を出てハーバーロードを超えたところにある「きらら広場」は、広場という名称をつけていますが、実は道路敷の

一部です。今後D51前道路の歩行者専用道路化が進めば、おそらくこの場所も「●●広場」という呼称で呼ぶことになるだろうと思います。私が幼少の頃、自宅の前の道は土の私道でしたが、ある時から一部がアスファルト敷に変わり、その後その場所は、ローセキでお絵描きして遊ぶためのみんなのキャンパスへと生まれ変わりました。車が通るような道ではなかったので、そこは、僕と私のお絵描き広場になったのです。

あれから50年近く経ち価値観も変わっていく中で、いまやアスファルト敷を止めて芝生広場に変えていく、いわば「土に戻す」ということを市民が選択し、行政がそれを推進していくことが当たり前になってきた。1986年からタイムスリップして、今回の社会実験会場に現れたおじさんなら、私たちの取り組みを見て、きっと『不適切にもほどがある!』と言うのでしょうか。そうしたら、私たちが言い返してあげましょう、『A.R.E. GOES ON(アレに向かって挑み続ける!)』と。

5月11日、12日は、ぜひD51前にお立ち寄りくださいませ。

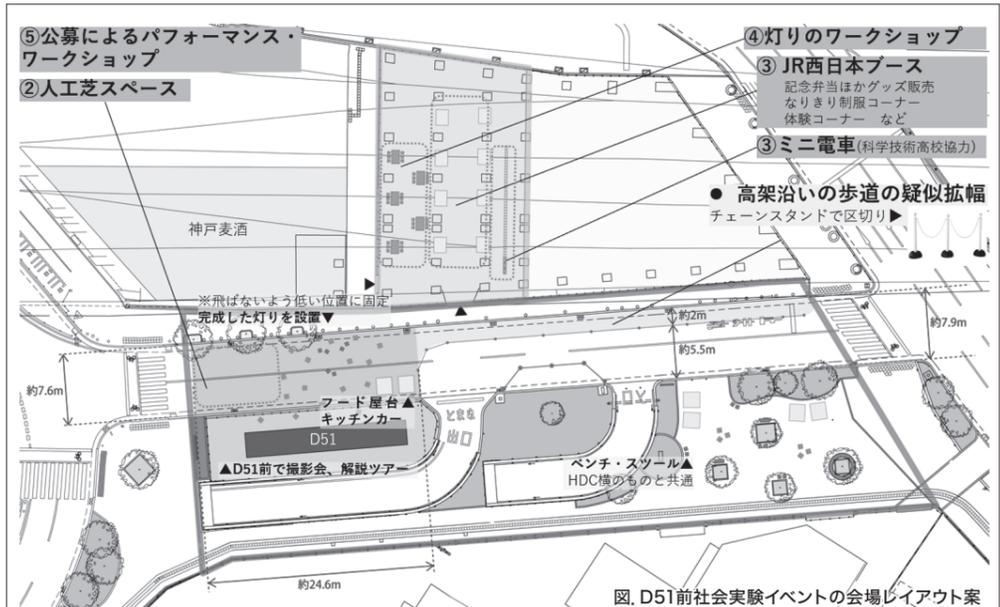


図. D51前社会実験イベントの会場レイアウト案

神戸元町商店街 楽市楽座 4月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523

4月 4日(木)~4月 9日(火)第30回 いたく15人会
4月19日(金)~4月22日(月)兵庫倶楽部 写真会

◇元町映画館(有料) TEL.366-2636

3月16日(土)~4月 5日(金)『戦雲 -いさふむ-』
3月23日(土)~4月 5日(金)『Here』/『ゴースト・トロピック』(*日替り上映)
3月30日(土)~4月 5日(金)『白日青春』
3月30日(土)~4月12日(金)『ピーター・グリーンウェイ レトロスペクティヴ』
4月 6日(土)~4月12日(金)『験の転校生』
4月 6日(土)~4月19日(金)『アランラブソディ』・『ブルーイマジン』
4月 6日(土)~4月26日(金)『成功したオタク』
4月13日(土)~4月26日(金)『かづゑ的』・『輝け星くず』
4月20日(土)~5月 3日(金)『フジヤマコトントン』
4月27日(土)~5月 3日(金)『イスラム映画祭9』
【予定は変更になる場合がございます。】

(お知らせ)みなと元町タウンニュースの発行が、2024年4月号から、「4月・7月・10月・1月発行」の季刊発行に変わります。

海という名の本屋が消えた (125)

平野義昌

西村旅館(17)

大正から昭和初めの西村貫一愛書随筆を紹介してきた。残された資料を見る限り、貫一の書物研究熱は次第にゴルフとその文献蒐集に移る。加えて文化人・知識人を招いてシンポジウムを開催。不況により旅館経営にも本腰を入れなければならなくなった。

貫一のライフワーク、「ゴルフ文献総目録」で締め括りたい。書名“A Bibliography of Golf Based On The Compiler’s Private Collection of Golf Literature By kwan-Yichi Nishimura”(以下『ビブリオグラフィー』)

1963(昭和38)年、出版を目指していた長男・雅貫(がかん)が亡くなり、次男・雅司(まさもり)が引き継ぐ。扉に、個人出版であること、「西村雅司」の名と柴町通の住所が印刷されている。国立国会図書館関西館で私が閲覧した本には、100部限定のうち49番であることが手書きで記入されている。



大冊の英文書籍。雅司の序文が日本語文章(英訳もあり)なので、私は話を進めることができる。雅司は、父の生い立ちから旅館継承、ゴルフ熱中、プレイ引退、文献研究と蒐集を語る。さらに、父が自由人であり「また意志の人でもあった」と誇る。

日本の軍国化が進み、戦いの足音が近づくにつれ、ゴルファーたちもいろいろな統制を受けた時代に、父はなんの制約も受けずにこのビブリオグラフィーの完成に約10年の歳月をかけ、1本の指でタイプライターを打ちつづけていた。)註1

1937(昭和12)年からアメリカ帰りの中島涼が同書編集作業を補佐した。雅司は43(昭和18)年頃に原稿の校正・補遺終了、と記す。註父ビブ中島は、貫一の歴史叙述に推測・曖昧を許さない姿勢に従い、徹底的に調べた。原稿完成は「日支事変で国中が騒がしくなっていた」頃、「昭和十五年」と述べる。註2

貫一は文献と共にこの『ビブリオグラフィー』原稿も本土空襲から厳重に守った。敗戦後、進駐軍が何度も文献接収を要求してきた。本国のコレクターからの依頼らしい。貫一は二重の本箱を作り、奥に貴重文献を隠して「すべてB29に焼かれた」と守り通した。註1

1960(昭和35)年2月5日、貫一永眠、65歳。『ビブリオグラフィー』に遺言があった。〈「後世の人よ、もっと良く調べて、そして出版せよ」〉註1

貫一はタイプライター原稿に校正記号、註釈、訂正、抹消を手書きで記している。活字印刷ではミス恐れがあるため原稿そのものを写真製版した。英文は貫一執筆時代から英語学者・伊藤鎮(まもる?)が協力(出版当時60代半ば、関西外国語大学で講義)。またイギリス人アーサー・ジョン・タイトが序文を寄せている(1934年6月付け)。タイトは文献蒐集の好敵手で、蔵書リストを交換し合った。自分より貫一蔵書の方が優れている、と貫一未所有の本を譲った人物である。

本の体裁・内容。大きさ31×24cm、本文960

ページ、索引含め千ページ超、収録書籍530冊すべてに書誌。限定100部。定期刊行物、歴史、ゴルフ場、クラブ史、ミニゴルフ、絵画、文学(小説・詩・随筆)などに分類。旧所蔵者名も記載。奥付がなく、雅司序文に日付「1974年2月5日」があるので、これを発行日と考える。付録冊子には37点の書影が収録されている。

100部の本はどのように配られたのか。木村毅の証言。〈……国会図書館に相談にゆくと、鈴木平八郎副館長が、海外の図書館事情に詳しい専門家だけに、志を奇特として、一旦、国会図書館で寄贈を受けて、その手から手数料一切を負担して、発送の労を取ってやろうということになったのは、西村君も地下において、「わが志は達せられたり」と満足の微笑を洩らしていることであろう。(中略)ゴルフ上達とか、歴史的知識とかいう以上に、それを超越して、飽くことを知らぬ、不断の文化的源流に突きあたらねば承認せぬ、熾烈な探求心がある。西村君はそれを目あてに一生涯を打ちこんだゴルフを通しての求道者だった。〉註3

雅司も感慨深い。〈いま私の書斎にある父の蔵書は父の墓石であり、この960頁のビブリオグラフィーは、父が自ら刻んだ墓碑銘エпитаフである。〉註1 『西村旅館年譜』(以下『年譜』)の完成出版も貫一死後のこと。奥付「昭和五十五年二月二十五日」(1980年)。マサ夫人が「あとがき」に、貫一の遺稿『年譜』出版を計画していた雅司が急逝したこと、原稿の最後に貫一遺言「子孫これを出版せよ」と記載されていたこと、ゴルフ関係者・印刷会社の協力と支援があったことなどを語る。註2

志を果たした人、補佐した人、先人の遺志を引き継いだ人、その完成書物普及に協力する人……それぞれの力があつた。

1982(昭和57)年、兵庫県三木市廣野ゴルフ倶楽部の「JGAゴルフ・ミュージアム」に貫一のゴルフ文献・蔵書は収蔵された。

60(昭和35)年2月5日午後4時40分、貫一は狭心症のため自宅にて死去、67歳。翌日の「神戸新聞」と「朝日新聞」神戸版に訃報記事が掲載された。7日「朝日」には当日午後3時の葬儀案内が通知されている。

私は長女・春子が貫一のことを書いた文章に気になるところがある。〈……三才にして両親に死なれ、乳母にそだてられ、添木にもならぬ飾物の養子の後見に親類の両家に家を狙われ乍ら成人し、十九才で家業をついだ父は徹底したボンボン育ちであり乍ら、早くも人のみにくさを身にしみて思い知らされた筈であり、(後略)〉註4

養子の後見人や親類に家を狙われ云々、この後には「回漕業の方を養子に惜し気もなくくれてやり」という文章もある。註4

くり返しになるが、『年譜』を遡る。明治初めに西村絹が神戸で旅館を創業し、その後回漕業も兼ねた。息子・家興が放蕩者ゆえ絹は旅館を継がせなかった。姪夫婦・青木雅貫と春の子(乳児)を養子にしたが、すぐに死亡。雅貫夫婦を西村家に入籍させた。その前に絹には養子・邦次がいた。1886(明治19)年絹死去。雅貫は西村商会(石炭商)を共同経営しており、これが親戚筋かどうかは不明。94(明治27)年雅貫夫婦が病死、末子の貫一含め5人の子が残された。1901(明治34)年旅館支配人の雅貫実弟が独

立。貫一成長まで従業員が遺児たちを育て、経営を支えた。26(大正元)年回漕部の邦次が独立。34(昭和9)年絹の妹経営の大阪花屋旅館が倒産するが、貫一は『年譜』に新聞記事を貼り、僅かに書く。

〈四月廿二日 五代西村絹さんが明治二年創業の大阪名物花屋旅館没落の記事、朝日、毎日両新聞に現る〉註2

既に縁が切れていたと考えてよい。春子の記述は両親から伝えられたことだろう。当主不在の繁盛旅館に親戚たちが群がった。幼いうちから貫一は醜い現実を知ってしまった。長男・後継という重い責任と期待がのしかかったことは想像に難くない。推測・曖昧は貫一に失礼だが、学校での反抗、文学耽読、芸者遊び、ゴルフ熱中はその反動、と思える。

貫一と鈴木商店の関わりを書いておく。1874(明治7)年弁天浜で「鈴木」創業。1902(明治35)年栄町4丁目(のち倉庫兼住居)に移り、さらに04(明治37)年同3丁目に移転。貫一との関係はまず18(大正7)年の米騒動時。暴徒化した群衆が本店焼き討ち前に4丁目の旧本宅を襲った。在宅中だったお家はん・よねは女中と屋根伝いに逃げ、隣家の物干しから中に入れてもらう。よねは古い浴衣を借りて西村旅館に避難。旅館番頭は2階の2号室に匿うが、巻き添えを心配して、大石別邸の貫一に連絡。貫一は、たとえ焼かれても匿うべし、と厳命。註5

次いでゴルフ。1920(大正9)年鳴尾のゴルフ場全体が「鈴木」所有になる。工場建設計画あるも進まず、社員用ゴルフ場に使用。社員と有志会員で鳴尾ゴルフ倶楽部結成。理事長は「鈴木」創業者次男・岩蔵。22(大正11)年貫一入会、その後主将に就任した。註6 「金曜」の盟友・増田五良(増田製粉社長・文芸研究家)の追悼談話を紹介する。〈西村君は実に直感力の鋭くかつ確かな人だというのが、私の同君と会った最初の印象だった。同君を利用しようとか何とかたくらむところがあつて近づく者など直ちに見抜かれてしまう。(後略)〉註7

へそ曲がり、意地っ張り、頑固。反面細心で、若者や恵まれない芸術家・学者を支援した。増田は、不遇時代の牧野富太郎の後援したことを特に評価する。実務は不得意だが、企画・創意・実行力に富み、人が集まってくる。へちまクラブの活動を「神戸における文化運動の静かな推進力」と褒める。註7

貫一は文化・芸術の理解者・擁護者であった。栄町通3丁目「西村旅館」跡地には西村写真研究所とへちまモータープールがある。「西村」と「へちま」の名が残っている。

註1 前掲“A Bibliography of Golf〜”

写真は同書の扉ページ

註2 西村貫一『西村旅館年譜』自費出版、1980年

註3 木村毅「この文化史的価値を見よ」(『日本ゴルフ史 復刻版』雄松堂書店、1976年、付録冊子)

註4 湯浅春子「はだかのへちま」(『へちまと十年』へちまクラブ編・刊、1956年)

註5 参考文献、武田芳一『黒い米』(のじぐく文庫、1963年)、島京子『幻の商社に実在したもの 鈴木商店女主人・鈴木よね』(島京子編『黎明の女たち』神戸新聞出版センター、1986年)

註6 井上勝純『日本ゴルフ全集3 日本ゴルフコース発達史(1)』三集出版、1992年

註7 「神戸新聞」1960年3月2日夕刊

引用文は適宜新字・新かなに直した。

みなとMIO MACH ケンチクさんぽ vol.33

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

創造性を育む空間 —神戸のワークプレイス探訪—

本連載vol.5では、「空間資源としての古ビル —神戸と横浜の事例から考える—」と題し、神戸と横浜都心部に位置する築年数の古い低廉なビルが、創造産業(アーティストやクリエイター・起業家等の新たな価値や文化を創造する業種)の居場所となり、个性的な境界の創出に繋がっているのではないかと、との考えを述べました。創造都市政策を推進する横浜市では、そのような寛容さや多様性を尊重するコミュニティを創造境界と定義し、経済活動の活性化だけでなくイノベーションの創出やこれからのまちづくり手法として注目しています。

一方、神戸市ではデザイン・クリエイティブセンター神戸や新開地アートひろば(旧・神戸アートビレッジセンター)等による創造的な活動支援の他、近年ではデザインや広告、IT等の情報サービス分野を都市型創造産業と定義し、創造産業の集積や地域振興に取り組んでいます。このことから、創造産業への期待が高まっていると考えることができます。また、これらの産業は時間や場所に捉われず知的な創造活動が行える産業として、都



まちらぼ(神戸まちづくり会館)

ンやアート関係者以外の利用者も見込まれ、つながりの広がりを意識した拠点となっています。クリエイティブラウンジは元々、荷捌き場を改装したギャラリーでしたが、木材を使用した長テーブル、椅子やソファなどの家具が置かれた休憩スペース、ミーティングスペースなどが配置され、作業空間としての充実だけでなく、3Fの利用者や4Fの事務所関係者なども利用することを想定した計画となっており、利用していると建物全体が有機的につながる気配を感じ取ることができます。三宮の中心部からKIITOまでは歩くと多少の距離がありますが、東遊園地の整備も含め、認知度の向上が期待され、より注目度が高まっています。

最後は、2023年4月にオープンした神戸有数の水道筋商店街近くにある「Incubation studio SoWelu」です。2つの古い建物を繋げてリノベーションした拠点で、建物内にはコワーキングスペースの他、シェアキッチン、ギ

ャラリー、イベントスペースの増加と共に注目されています。

今号ではそのような背景から、イノベーションや地域交流が期待される場として、創造境界の活動拠点における多用途で様々な人々に使われる“自由な仕事場”をワークプレイスと定義し、筆者が訪れた神戸の拠点を振り返りながら考えてみたいと思います。

まずは、神戸元町商店街の中央に位置する神戸まちづくり会館内にある「まち活拠点まちらぼ」(以下、まちらぼに略)です。みなと元町タウンニュースを愛読している方々はよくご存知のことと思いますが、神戸まちづくり会館は1993年11月にオープンしたまちづくり活動の支援拠点です。2019年4月より大規模改修が行われ、現在は1Fに神戸元町みなと書店、4Fにまちらぼ、5Fにワークスペースが設置されています。改修前は貸室・ギャラリー・図書室などが中心でありましたが、現在は用途が多様化し、周辺住民の新たな需要に応えていると感じられます。

4Fのまちらぼは、ワークスペースはもちろんのこと、書棚やカフェ、ミーティングスペー



クリエイティブラウンジ(KIITO)

ャラリー、イベントスペースなどが混在しています。全体的にインテリア・小物雑貨・植栽が適所配置されており、暮らしを楽しむ精神性が感じられます。空間は主にコワーキングスペースの南館、シェアキッチンとギャラリーのある北館に緩やかに分かれており、来訪者を混在するのではなく用途に応じたゾーニングが印象的でした。

イベントスペースに併設されたシェアキッチンはコワーキングスペースの利用者や地域の関係者などが利用しており、つながりを生む仕組みが日常的生活の中に組み込まれていると感じました。また、施設内には、まちづくりや起業支援、地域連携を得意とするインキュベーターが在中しており、王子公園や水道筋商店街を中心とした創造性の育成やイノベーションの推進において重要な貢献を果たしていることが感じられます。

これらの事例から、神戸のワークプレイスは、それぞれの立地やコンセプト、運営団体

ス等が緩やかに仕切られており、適度に感じられる人気が居心地良く、図書館とは一味違う空間となっています。集中して作業に打ち込める場所とオープンに気軽に雑談ができる場所があり、関わり方の多様性を生み出していることが熟慮されておりました。また、まちづくりの専門家や職員による様々な企画が催されており、それに参加されている方々や職員さんからは、地域への誇りや愛着のようなものも感じられたことが印象的でした。

次は、デザイン・クリエイティブセンター神戸(以下、KIITOに略)内のIFにあるクリエイティブラウンジです。KIITOは旧神戸市立生糸検査所と旧国立生糸検査所の跡地を利用した2012年8月にオープンした創造境界拠点です。地上4階建ての建物内にはデザインやアートに関係するスペース、検査所時代の歴史展示などがあります。2022年6月には神戸市勤労会館の閉館に伴い、2027年に完成する再開発ビルに移転するまでの期間限定で同年7月から2FにKIITO三宮図書館が開設されています。

クリエイティブラウンジは3FのKIITO:300と共に2021年9月に整備されています。図書館移転を想定した計画となっており、デザイ



イベントスペース(Incubation studio SoWelu)

によって異なる特色を持ち、歴史的建造物を改装した独特の雰囲気、商店街内のまちづくり拠点、古ビルを活用したカフェを併設したリラックスできる空間など、多様な仕事場となっていることが確認されました。また、これらのワークプレイスは、多様な人材と交流できる空間を有することで、創造産業のスタートアップやベンチャーをインキュベーションする仕組みに貢献しているのではないかと考えることができます。

今回は誌面の都合上、話題はここまでとなりますが、今後も神戸のワークプレイス探訪は続けていきたいと思いますので、また機会があれば報告させていただきます。



鈴木 亮太 (すずきりょうた)

神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 ファッション・ハウジングデザイン学科 講師/横浜市立大学大学院 都市社会文化研究科 博士後期課程/専攻分野 空間デザイン・創造都市論